

アンケート集計

地域社会との共生を願うシリーズ第2回 「発達障害の正しい理解と支援」

講師：上野一彦東京学芸大学名誉教授

会場：西日本短期大学

日時：2011年11月19日

1. 参加者ご所属

所属	家族	福祉事業所	医療関係 (PT・OT・ ST・看護 師)	学生	特別支援 学校教諭	特別支援 学級教諭	学童保育 スタッフ	行政	教職員 大学・短 期・専門学 校	小学校 教員	保育士・幼 稚園教諭	本人	その他	合計
アンケート回収数	32	25	10	9	9	9	7	7	6	6	8	3	21	152
知人紹介	9	7	3	3	2	3		1	4	2			8	42
チラシ	5	6	5	1	7	6	2	1	2	2	3		4	44
インターネット 便 知サイト	2	7		1				1			2		2	15
学校・職場	3	3	1	3			2	1		1	1			15
市政だより	2		0							1		1	2	6
新聞	7						1	2			1	2	4	17
その他	1	2		1			2	1			1		1	9
合計	32	25	10	9	9	9	7	7	6	6	8	3	21	152

2. 参加のきっかけ

3. 講演内容について

良く理解できた・参考になった・今後の支援に役立つと思う	149人
難しかった	3人

記述 今現在「介護職員基礎研修」を受講中であり、将来「社会福祉士」を目指している27歳男です。自分自身、物事の理解に一般人より時間がかかり、軽い「発達障害」と診断され、今日自分自身の事が少しでも理解できればと思い参加させていただきましたが自分の知識不足で話の内容に理解ができず、もっと分かりやすく話をしてほしいです。

4. 大学の講義室での講義について

講義が聞きやすかった・プロジェクターが見やすかった・メモが取りやすかった	126人
後ろの方は見にくい・暑かった	2人
他の施設が良い	17人

記述 ・ 机が入りやすいほうがいいです(横長だったので入りにくかった)

・ 駅から遠い。階段が多い。

・ 駐車場がなく困りました。公共交通機関でも少し遠いです。

・ 少し不便でしたが、大学でというのは良かったです。

・ 少し暑かったです。息苦しく感じました

など

5. 感想など

◆家族 支援学級にいと通常級をモデルにできない。座ってられないから支援学級なのだけれども支援学級ばかりでは周りを見て学ぶことができない。

・ 発達障害を持った人でも自立できる世の中にしていきたいですね。

・ LD児がいます。今病弱児の屋形原特別支援学校に通っていますが理解されず、必要以上に求め、追いつめ、二次障害で苦しんでいます。発達障害に理解のない先生がいるもの現実です。

・ 障害に対する取り組み、支援体制(施設)が地域によって差がある。全体が同じレベルになって欲しい。福岡では福岡市北九州市は良いが、飯塚市嘉麻市は病院も療育センターもなく閉鎖的で理解の遅れを感じる。

・ 親が動かないとダメなので主催者のネットの皆さん頑張って下さい。

・ 発達障害等理解者が少ないと思う。就職して自立できる社会にしていきたい

上野先生の障害を持つ子供達への暖かいお気持ちが伝わってくるいい講演でした。孫が障害を持っていて中3の今進路に悩み結局支援のある学校を選択しました。趣味は因数分解という彼には英語・数学の学習がなくなるということがショックのようでした。こんな特殊な子供を受け入れるというより伸ばしてくれる学校がたくさんできるといいですね。手話の方は交代していらっしやっただけど先生は立ちっぱなしお疲れさまでした。

・ 本人と兄弟姉妹への告知をまだしていない。父親にやっと伝えてどうにか納得してもらったところ。

・ 自閉症の子供です。健常児との一緒に参加にその時は参加を拒むので参加しなかった。時間がたった後に参加したいとパニックになる時の指導の方法。(ただし一回のみの行事なので次回の参加はできない)

・ △△の中にずっといることと、少しでもとり△す事は全然違います。基本、ずっと一緒にいるべきです。(△は判読不能)

◆福祉事業所

・ 総合福祉法の発達障害の位置付けがわかった

・ 近年発達障害が認識され、増加傾向にあることに驚きました。前向きに考えることが大切だと思いました。外国に比べて日本は遅れていることが多々あると聞き残念に思いましたが、これから変わっていくことを願います。

・ 障害についてもっと知りたいという気持ちになった

・ 本日はとてもためになるようなお話を聴けて大変勉強になりました。発達障害の支援等、今回学んだことを活かしていけたらと思います。また「そばにいる理解者という大切さ」を感じたので、より気持ちに寄り添いながら日々を過ごしていきたいと思います。家族からの質問や話を通して、より考えることのできた会になりました。有難うございました。

・ 本人が何を思っているのか聞き出すのが難しい(どのようなニュアンスでもっていったら良いか)とてもわかりやすい内容でそれぞれの特徴がつかみやすかったです。

・ 中身の濃いお話がきけたので先生の著書等があれば読んでみたい

・ 施設職員として支援スタッフの専門性(モチベーションや人を思う心の豊かさ等)向上させていくための取組や進め方が上手いかない。

◆医療関係(PT・OT・ST・看護師)

・ 医療職として働いているが、学校などにもっと関わっていききたい。どうしたらいいか。行動するしかないと思った

・ さまざまな事例のお話イメージしやすく合間の写真やトークでとても楽しくお話を聞くことができました。有難うございました

・ 産まれた時⇒学童期⇒成人までずっと見てもらえる人、そのような機関(システム)があれば良いなと思っています。ケアマネみたいな感じ。

・ とても興味深くてわかりやすかった。リハにおいても発達障害や自閉症の子とどう接していくか、勸化直す機会になった

・ 最新の情報(大学の入試等)や特別支援学級や通級のあり方などがわかり、とてもよかったです。

・チラシには成人に対する支援についてもご講義あるかのように書かれていたと思うのですが(そのために参加したのですが)子供の話でしたのでちょっと残念でした。

◆学生

・発達障害を理解しての教育がいかに大切かを学んだように思います。社会人として自立をいうゴールを考えて支援者がいかに取り組んでいくか、そんな課題を明確にできた講演でした。

◆特別支援学校教諭

・センター試験での発達障害の人への配慮があることを知りました。

◆特別支援学級教諭

・とてもわかりやすかったです。PPのメモをいただけたので、照らし合わせながらメモができたので良かったです。またぜひ福岡に来ていただきたいです。ありがとうございました。

・発達障害や知的遅れが軽い子の就職

・その人それぞれが持っている「困った」に応えていく特別支援教育が実現できるように学び実践していきたいと思いました。ありがとうございました

・自閉症スペクトラムを理解するところで、わかっているけどできてないということを思い知らされた感じでした。自閉症スペクトラムの理解、もっともっと深めたいなと思いました。

・学級の児童が療育手帳の交申でB-2判定を受けて、受けられるサービスが減った。知能は小1レベル程度あるかないかだと感じるが、その他の発達障害に関わる部分で日常生活にはそれらの知能が活かされていない。今日の話で発達障害が精神の手帳に関わるということは分かったが判定する方も知能はあるがそれが他の障害により力が発揮されていないことも分かるが制度として手帳としてはB-2と判定された。総合的に判定していただけるようにはならないのだろうか？

・発達障害児に対応する人が多く必要な現状の中で、特別支援学校はもとより支援学級や通級に関わる教員の専門性が不足しているように思います。今後質・量、共に高めていけるようにしたらいい方法があればと思います。

・とても分かりやすい内容でよかった。上野先生のお人柄、情熱にふれることもできて感激でした。通常学級の中で発達障害の子供たちをもっと育てられる整備が必要だとつくづく思います。

・コーディネーターをしているが特別支援員の人材を見つけるのが大変。福岡市(小学校)なのかどうか制度のことはわからないが支援員は学校でさがし最長2ヶ月、2ヶ月たつと他の人(2ヶ月たつとまた前の人でもいい)という変な制度で困っています。支援を受ける子供にとってもコロコロ支援員が変わるとするのはよくないと思うのですが…。支援員の方が2ヶ月のローテーションにきっちりまわっている学校もあるようですが、うちは支援員さんが正規の職につかれるなどで止められていくので大変です。

・学級にADHDと思われる子どもがいて、毎日こちらのほうが精神的にも肉体的にもきついと思っていましたが、講演を聞いて、もっと子どものことを理解して、やれることに取り組んでいこうと思えるようになりました。ありがとうございました。

◆教職員かつ保護者など

・保護者に伝えるための配慮事項

・今まで知っていた事より深く知る事ができました。日本の特別支援教育が進化しつづけているんだなあと思いました。

・発達障害はその子の個性であって別に病気ではないことがわかり安心しましたがこれからも親は大変である事に変わりありません。質問を聞いて頂き本当にありがとうございます。

◆学童保育スタッフ

・具体的に発達障害の子にどのような声かけが必要か

・ADHDの疑いがありながら保護者の理解がなく本人は常にストレスのかたまりになって子への対応。たくさんの子供たちに囲まれたにぎやかな環境の中で居心地の悪い思いをしている衝動的な子への対応。たくさん悩みはあります。

・発達障害について理解を深めることが出来て良かった。教育・医療・福祉の連携についても今後さらに考えていきたい

◆行政

空気が読めない、こだわりが強い、臨機応変は苦手…発達障害傾向にある高齢者がデイサービス等でのトラブルメーカーになりやすい。また、認知症を発症すると(合併?すると)さらにコミュニケーションが取りづらくなります。成人・高齢者の発達障害の人とどうお付き合いしたら良いか、最近、妄想性障害(疑)・発達障害(疑)・統合失調症(疑)＋経度認知症で精神科に入院した高齢者がいます。今日の話を知るとどうしても発達障害＋認知症のような気がするのですが、妄想性障害・統合失調症の治療がされています…とても悲しいです。もう一度主治医に発達障害ではないか?と話してみたい。でも、発達障害だったら、何か対応方法があるのでしょうか…。

正直良い話が聞けた。とてもわかりやすかった。これからの仕事に参考になった。子どもの立場に考えることの姿勢に非常に敬意を持って聞くことができた。ありがとうございました。

- ・発達障害を持っている子供たちの自立が最終目標であると言われたのが印象的でした。それに向けて支援することの重要性を感じた。
- ・「大人のモデルが少なすぎる」といわれないようにしたい。インクルーシブ教育の必要性?
- ・セフティネットの機構の改革とそれを越える社会連携システムの構築の必要性。

◆教職員(大学・短期・専門学校)

親との関係があまりうまくいってない学生に対してどう支援していったらいいか。・本人が自身について認識し苦手なことをうまく相手に伝えるためにこちら(学校)側が何かできることはないか。(今は受け入れられないがまんしている状態)・まわりのスタッフに理解を進めるにはどうしたらいいのか。

講演内容は本を読めば分かる内容では・講師の主張内容で構成された講演(参加の皆さんはもっと実際的な指導について聞きたかったのでしょ?)

- ・学生の今後の進路について ・学校では支援できるが働く上でどのような支援が可能か? ・また企業にはどのように話をすれば良いのか?

現在専門学校にも発達障害を持った学生が入ってきており、どちらかという他の学生の中で埋もれてしまう傾向にあります。高校での教育内容を、進学先に提出していただけるようになると、入学後の指導はやりやすくなる反面、まだまだ理解とサポート体制が整っていないことで、門前払いをしてしまいかねないとも思い複雑です。学生もですが、同じ職場に明らかに発達障害を持った先生がいます(複数)。大学と違い専門学校は(最近では大学もそうだと聞きますが)自分の得意なこと、やりたい仕事だけではすまない、幅広い仕事や柔軟な発想が求められるため、彼らに出来ない仕事がたくさんあり、困っています。しかし、本人はやっているつもりであり、周りにそのように思われていると認識もないので悩みます。仕事を持ち、自立しているように見えても、このようなケースの場合、自立しているといえるのだろうか、と日々、疑問に感じています。

◆保育士・幼稚園教諭

2時半に渡る講演ありがとうございました。お疲れさまでした。私は初めての講演で理解するのが難しかったです。またゆっくりじっくり講演聞いてみたいです。

◆本人

- ・ 今日周りとのかわりについて知りたかったです。
-

◆その他

- ・ 発達障害の話をするときに、杉山登志郎先生のいう第4の発達障害、虐待という環境によってあたかもADHD, アスペのように見える子どもの話にも触れてほしい。
-
- ・ 働くにあたり気になっていたところが今日知ることができて良かった。とても勉強になりました。有難うございました。
-
- ・ 自立させていく社会づくり・インクルーシブな社会づくりを目指して行くことの重要性を感じています。・みんな同じでなくその子に合った教育で自立していく、その支援体制を整備していく。ありがとうございました。
-
- ・ 教室が暑く集中できなかった
-
- ・ 今、大学でソーシャルワークの勉強をしています。今日の公演は、今後の勉強に役に立つと思います。また、毎年発達障害児の療育キャンプにも参加しているので、そこでも役に立ちそうです。ありがとうございました。
-
- ・ 暑すぎて頭がぼーっとしてほとんど集中できなかった！
-
- ・ これからの発達障害支援についての見通しがわかるようになりました。ありがとうございました
-
- ・ 障害者が実際に就職した職場の例や工夫について詳しく知りたいです。
-
- ・ 講師の話すスピードがほどよかった。テキストが見やすかった(A4に2項目はgood)
-
- ・ 発達障害の知識についてよくわかりました。有難うございました
-
- ・ とても興味深く聞きました。私が支援していた里親ホームに「障害を持っている子が故に」虐待され里親に育てられていた子がその人間関係交流の仕方がまずいため、他の子どもとうまくいかず出て行きました。この子の将来がとても心配です。成人になるまでどういう受け皿があるのでしょうか。
-
- ・ 自分の身の周りに発達障害を抱えた人が何人かいて、ちゃんと向き合っていくには、まず障害について知ることが大切だと思い、今回参加させていただきました。短時間で全てを理解するのは難しいことだけど頂いた資料等を帰宅後にまた見直し、今後の参考にさせて頂こうと思います。
-
- ・ 今現在「介護職員基礎研修」を受講中であり、将来「社会福祉士」を目指している27歳男です。自分自身、物事の理解に一般人より時間がかかり、軽い「発達障害」と診断され、今日自分自身の事が少しでも理解できればと思い参加させていただきましたが自分の知識不足で話の内容に理解ができず、もっと分かりやすく話をしてほしかったです。
-

-
- ・発達障害+虐待△△△>2次障害への対応(成人後なるようになってしまっただけからではどうすればいいか?)(△は判読不能)
-
- ・早期診断によって本人やご家族にとってレッテルになる場合の難しさを考えています。
-
- ・社会の中に理解者を増やすこと。
-
- ・本日は子供の発達障害についてだったけれども、大人の発達障害について困っている。(成人してからの診断)について
-
- ・今年の4月より障害児の一時支援(放 一日)を担当しています。一人一人の個性があり日々対応(子供との付き合い方等)にスタッフで話し合いながらやっています。
-
- ・小2の子供の支援をお手伝いしています。少しおませな子は支援が必要な子に対し「何で出来ないの?」や意地悪な態度をするようになりました。個性の大切さをどう伝えるかももう一度担任の先生と特別支援の先生と相談
-
- ・いろんな例を出しながらの講義で分かり易かったです。
-
- ・非常に分かりやすい講演でした。プロフェッショナルではありませんが発達障害の知識が得られて今後の活動に役立てたらいいなと思いまし
-
- ・親と子の関わりを勉強しているとき、親の苦勞している子にひょっとして発達障害かなと思う時があって参考になりました
-

6. 今後聞きたい講演など

-
- ・「発達障害は治りますか?」の著者(神田橋條治先生)ニキ・リンコさんなど当事者の話を聞いて見たい。
-
- ・小西行郎・榊原洋一
-
- ・LDやADHD、自閉症スペクトラムの子たちへの、具体的な支援や学習面の指導(課題)
-
- ・今後進学のことになりそうですので色々な方の話を聞いて子どもにとって良い選択ができるように支援していきたいです。
-
- ・家族への支援方法
-
- ・大学での支援法、卒後の事例。兄弟姉妹への対応方法。
-
- ・福岡教育大の納富先生
-
- ・知的障害の児童生徒に何を学ばせたら良いのかを具体的な指導について
-

-
- ・ 障害者の就職支援について
-
- ・ インクルーシブ教育の普及について、お話を聞きたいです。
-
- ・ 教員免許なしで小学校支援員をさせていただいています。個人で本を読んだり講演会に出向いたり心理学を勉強しながら学んでいます。支援員の勉強会の場が「少ないのでそういう場がもっとほしい。
-
- ・ 障害者の就職・雇用についての話を聞きたいです。
-
- ・ 井上雅彦先生・田中康雄先生
-
- ・ 藤原義博先生・坂井聡先生
-
- ・ 二次障害をおこして、反社会的、非社会的行為をくりかえす子に対する具体的な支援を知りたいと思っています。
-
- ・ お話にもあったように、今後テクノロジーで教育も自立（社会参加9も大きく変わるのでそのような話を聞きたい
-
- ・ WISC-IVの内容（概要・Ⅲと比べて変わったところ）を例など含めてお聞きしたいです。
-
- ・ カニングハム久子さん
-
- ・ 診断（大人の場合）は具体的にどこでもらえばいいのか？
-
- ・ 障害者（精神・発達・知的）の就労支援と就労の現実について
-
- ・ まだまだ深い課題です…。でも子供たちは必ず社会に出なくてははいけない。少しでも勉強になればいろいろな講演を聞きたいのですがどれがいいのか良くわかりません。参加したいです、出来るだけでも
-
- ・ 「ちづる」1/21映画上映があります。みなさんにお知らせ下さい。
-
- ・ 自閉症スペクトラム障害
-
- ・ 発達障害の事例
-
- ・ 具体的な実践報告
-
- ・ 事例を通した失敗・成功例・具体的な取り組みや障害特性や現状についての最新情報
-
- ・ 発達障害を持ち大人になられて施設に通う利用者の方も多くなります。その方々への支援法（今まで、ADHD・LDの支援でなく知的のみで支援を受けてきている）を学びたいと思います。
-
- ・ “障害”という言葉自体あまり好きではありません。“障害”ではなく“違い”だと私はいつも考えています。”どの部分に、どのように苦手さを抱え、何に困っているのか”について考えることが必要だと思います。
-
- ・ 知的障害や発達障害への支援など詳しく聞いてみたいです。
-